⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

授業改善推進プラン(2023年度12月作成)

小016 町田市立小川小学校

学力調査等の状況
昨年度実施した全国学力調査では、国語67.4%・社会72.7%に対し、算数65.0%で理科61.7%であった。教科ごとに見ると、算数の思考・判断・表現(57.4%)、知識・理解(57.1%)、国語の知識・理解(56.4%)、理科の思考・判断・表現(56.4%)、技能(40.2%)が60%を下回った。社会は思考・判断・表現が69.7%であったが、「技能」「知識・理解」に比べると低い結果となった。

見えてきた課題
算数科、理科の結果が低い結果となった。また、どの教科でも「よく考え、表現する」ということを苦手としている傾向が見られる。授業の中でもどうやって問題を解決するか考えるのではなく、問題の解決方法を教えてもらうことが多い。自分の意見を分かりやすく伝える・表現することも課題である。また、理科の技能で見られたように「何のために」「どのように」使うのかという理解が十分でない。授業の中で何を目的としていくのか、児童が自分で学習に取り組めるよう改善していく必要がある。

授業をデザインする8つの取組について	
認め合う・学び合う集団の形成	児童が互いに認め合い、声を掛け合う環境を作り、児童の主体的な問題・課題解決に向かえるよう指導する。
ICT機器の活用	クローズドブックを資料提示、共有、児童の表現といった場面で活用し、多様な考えに触れる、自分の考えを表現する場面の充実を図る。
見通しをもたせる導入	何を学ぶのか、どのように行うのか見通しをもち、自ら学びに向かえる導入・課題提示の工夫をする。

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
国語科	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを表現したり、話し合いの中で分かりやすく説明したりするなど、必要な言葉や表現を用いて表現する場面を積極的に作る。また、発達段階に応じた語彙を増やす活動を行う。 既習事項を継続的に振り返ったり、他教科とも関連付けたりすることで学習内容の定着を図る。 児童が必要とする言語活動での効果的なICTの活用を工夫し、個別最適な学びにつなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全員が授業参加できるように、自分の考えをもつ時間を確保する。 自分の考えをもつのが苦手な児童に対し、ペア活動を取り入れ、相手の考えを聞くことで自分の考えとしてよいとする。 話し合いのポイントとなることをあらかじめ、提示し、繰り返し話し合いの場を設定していく。 ICTツールを活用してワークシート等を映し出すことで、書くことが苦手な児童にとっても視覚的に分かりやすい授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 並行読書や読書アプリを活用し、表現に必要な語彙を習得させる。また、活動に合わせて交流人数を変えることで、児童が積極的に考えを表現できるようにする。 単元の初めには既習事項を、単元の終わりには単元の学習内容を振り返ることで、国語の学習内容の一層の定着を図る。 ICTツールを使用することで、書くことに課題がある児童も考えを表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを「相手に伝える」という点を意識し、言葉の使い方や表現技法の確認を図ったり、話型を事前指導したりして交流機会を増やす。 既習事項を確認してから新たな学習に入り、文章を読む視点をはっきりさせる。 書く活動において、ICTを効果的に活用して個別最適な学びにつなげる。
社会科	<ul style="list-style-type: none"> 見たり聞いたりしたことや調べて分かったことから、新たな疑問や課題に児童が気付き、学習に意欲的に向かえるような導入の工夫を行う。 教科書や資料集だけでなく、ICT機器も効果的に活用し、問題の解決に向けて必要な情報を調べたり、分かりやすく表現したりする力を身に付けさせる。 ICT機器を活用して意見を共有することで、問題や課題に対する多様な関わり方に気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用方法を少しずつ指導し、扱えるようになってきた。共有・表現の場を今後は積極的に設定していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童がより主体的に課題を見付けられるような資料や写真を精選して提示したり、発問を工夫したりする。 児童の身近な事象や体験と関連させながら考えさせるとともに、自分の言葉で表現させる指導を繰り返す。 調べたこと、学んだことをまとめさせる活動に、必要に応じてICT機器の活用をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料をもとに考えること、めあてや学習進度などについてを児童に問いかけることで、児童から学習課題が出るような導入の工夫をする。 児童同士が協働して、課題解決に向けて考えたり、多くの資料を比較したりするために、ICT機器を活用して資料提示を工夫する。さらに、コメント機能を活用し、互いの考えを共有し合う場を設定する。 Canvaやプレゼンテーション、ドキュメント等を活用し、学んだことをまとめることで、学習の振り返りと知識の定着を図る。
算数科	<ul style="list-style-type: none"> 問題の場面を図や数直線など多様な表現方法で考えさせ、解決の過程を大切にしたり、根拠をもち筋道を立てて説明したりできるようにさせる。 ベーシックドリルや計算アプリ、四則計算ミニプリントを活用し、継続的に基礎基本の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返し、解決の過程を自分自身で考えさせることによって、道筋を立てて説明することができる児童も増えた。具体物や図など、多様な表現方法で考えることができることを繰り返し指導していく。 計算ミニプリントを継続的に行うことで、学年全体の学習力が向上している。その反面、学力の差が目立つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面を図やブロック等を用いて表現することで、根拠をもって考えたり説明したりすることができるようにする。ペアや小集団の中で自分の考えを発表する機会を多く設定することで、考えを説明する力を養う。 年間を通して、計算ミニプリントや計算アプリを活用することで、四則演算などの基礎学力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 図や式、表などを目的に応じた表現方法用いて問題を考察することにより、根拠をもって自分の考えを説明することができるようにさせる。考えを交流する場面を多く設定することで思考力、表現力の向上を図る。 児童の学力の実態に応じて、計算プリントや学習アプリを用いることで、四則演算などの基礎学力の向上を図る。

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
理科	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な問題解決となるよう、自然現象や生活経験とのかかわりを重視して、問題を見だし、考えをもたせるようにする。 観察、実験においてその目的を明確にすることで、「何のため」かを考えさせるとともに、知識・技能の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で何をしたいのか、そのために何が必要なのかを考えるように学習を進める。生活科においては問題解決的な学習を重視し、解決のやり方・考え方を指導していく。その中で気付きや疑問を大切に、「しりたい」「やりたい」を大事にし、その結果を生活の中で生かせるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然事物や現象を見たり触ったりし、一人一人が操作できるようにすることで、実生活や身の回りの自然と関連させる。 児童が問題意識をもち予想を立て、目的意識をもって実験を行う問題解決の流れを毎回の授業で行い習慣化する。観察や実験の結果の予想を児童一人一人が立てることができているか確認しながら指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然現象や生活経験から、新たな考え方を生み出したり、疑問を見つけ出したりできるように、授業の導入で意識付ける。振り返りでは、学習したことを自分の生活と関連付けることを意識させる。 多数の実験器具の使い方を繰り返し確認することを大切にするだけでなく、実験方法を考える時間も大切にしていく。
生活科	<ul style="list-style-type: none"> 周囲の人や自然とのかかわりを重視して活動を設定する。 振り返りの活動として、伝え合い交流する場を設定し、言葉などによる表現活動を大切にします。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然体験や生活経験の振り返りを各授業の中で大切にしたり、掲示を活用したりする。 自分の考えを話し合う場で、ICT機器を活用し、経験や体験、考えたことを伝え合う機会を増やす。 1年生では、実際に人との関わり、実体験をもとに、経験をしていく。一方で、2年生は自分で課題を設定し、解決できる力を身に付ける。そのために、グループ活動を多く取り入れる。 		
音楽科	<ul style="list-style-type: none"> 音楽的な知識・技能を深めるために、常時活動において題材と関連付けた音楽的活動を、個に応じて、無理なく参加できるように取組の充実を図る。 みんなと一緒に合わせる活動では、協働して曲を仕上げている上で、楽しく無理なく取り組むことができることに重点を置き、実態に合った選曲と、個に応じた練習の仕方の提示を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 題材のねらいと関連のある常時活動を行い児童が自然とねらいを意識できるようにする。 対話的な発問をしたり、提示した課題に対してペアやグループで考える等学習形態を工夫する。既習事項と関連付けられるよう前時の振り返りを展開前に繰り返し確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 題材のねらいと関連のある常時活動を行い児童が自然とねらいを意識できるようにする。 対話的な発問をしたり、提示した課題に対してペアやグループで考える等学習形態を工夫する。既習事項と関連付けられるよう前時の振り返りを展開前に繰り返し確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 題材のねらいと関連のある常時活動を行い児童が自然とねらいを意識できるようにする。 対話的な発問をしたり、提示した課題に対して、ICTを活用して自分の考えや他者の考えを交流させながら取り組む等学習形態を工夫する。既習事項と関連付けられるよう前時の振り返りを展開前に繰り返し確認する。
図画工作科	<ul style="list-style-type: none"> 造形活動における思考力、判断力、表現力を育成するために、つくり、つくりかえ、つくるといった学習課程を重視する。そのため、各学年の発達の段階に応じた題材設定や、児童一人ひとりが個別に適した選択ができるような材料、手立てを充実させる。 造形遊びや鑑賞の学習では、協働して制作する活動を通して、互いのよさを認め合う態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が自分で表したいことを見付け表現できるよう、題材の提示方法や場の設定を工夫する。 材料や用具の基本的な扱い方を繰り返し指導して定着を図り、表したいことに合わせて材料や用具を工夫できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が自分で表したいことを見付け表現できるよう、題材の提示方法や場の設定を工夫する。また、毎時の見通しを示したり、課題について児童が互いに相談したりして取り組めるようにする。 新しく扱う材料や用具だけでなく、前の学年で経験した材料や用具についても、実演やICTなどを活用して振り返り、どのように表すか試しながら表現できるように、材料や例題などを複数提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が自分で表したいことを見付け表現できるよう、題材の提示方法や場の設定を工夫する。また、全体の流れや毎時の見通しを示したり、課題について児童が互いに相談したりして取り組めるようにする。 題材に応じて様々な材料や用具を扱えるようにし、材料や用具を実演やICTを活用して振り返り、選択したり表し方を考えたりしながら工夫して表現できるように、難易度なども選択できるように提示する。
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> 健康で豊かな衣食住生活に関する課題を解決する力を養い、協働的な活動を通して実践的な工夫を生み出そうとする態度を育てる。 調理実習や裁縫など、実技内容に関する内容では、動画教材を積極的に活用し、安全面や技能向上につながるよう指導する。 			<ul style="list-style-type: none"> 実生活との関わりを大切に、「家でもできそうなこと」を確認しながら学習をすすめることで、実践しようとする態度を育てる。 実技面ではポイントを児童と確認しながらICTを活用して動画教材を見せたり、実際に実技を見せたりし、自分が行う場面を意識しながら学習に取り組めるようにする。
体育科	<ul style="list-style-type: none"> 児童が技能のポイントを意識し、自己の向上を意識できるように練習に取り組めるような環境を作る。(掲示物、映像資料等) 運動への苦手意識をもたせないようスモールステップで安心して運動に取り組める環境を設定する。(練習の場やルールの工夫など) 	<ul style="list-style-type: none"> 各運動で意識すべきポイントを教員間で意識し、活動を通して児童が前向きに練習に向かえる運動遊びを設定する。 運動遊びを通してできるようになったことや考えたことを伝え合う時間を設定し、児童が自分から工夫して遊ぶようになる態度を育てる。 安全に運動に取り組めるような場の設定や指導内容を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 常に動きを振り返りながら練習に取り組むことができるよう、カメラ機能を活用する。また、掲示物や映像教材を繰り返し確認したり、お互いの動きの良いところを伝え合い、高め合ったりする時間を設定する。 個人の技能を高めるために、基本的な動きを振り返る場や練習時間を設定したり、本時の内容を意識した補助運動の時間を工夫したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自身の動作の見直しの一環として、カメラ機能を使い、自分の動きや互いの動きを振り返りながら話し合いをすすめる。 動きのつながりを意識するよう声をかけ、本時の目標を意識して自分に合った場を選択したり、簡単な技から練習をすすめたりするよう指導する。

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
外国語科	<ul style="list-style-type: none"> ・チャンツやリスニングを通して、英語に慣れ親しむ機会を増やす。 ・自分から英単語調べができるようクロームブックを活用し、興味がある単語をすぐに調べることができるようにする。 			<ul style="list-style-type: none"> ・チャンツやリスニングで英語に親しみながら、細かい発音の違いや英語ならではの捉え方の違いに気付かせる。その気付きを大切にALTや友達と伝え合いながら課題を解決させる。 ・クロームブックの英和、和英辞典を活用し、児童が自由に単語を調べることができる場を設定する。また学習アプリに取り組み、英語を身近に感じさせる。
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な事象に目を向け、自ら問題や課題を見出し、解決しようとする態度を育てる。 ・単元毎に課題に合った方法で調べたり、まとめたことを発表する方法を工夫したりして、多様な学習過程を経験させる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・体験を重視するとともに、他教科との関連も大切にしたりすることで、児童が自ら問題を見いだしたり、解決したりしようとする態度を育てる。 ・様々な調べ方やまとめ方を知り、目的に応じた調べ方やまとめ方を考えることができるようにする。考えを伝え合う活動を通して、新たな気付きを得たり多面的に考えたりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが所属している社会の多様な生き方について学び、調べ学習を通して、自分の生き方に見通しをもてるようにする。 ・自ら興味をもったことに対して、個人やグループで様々な調べ方やまとめ方の良さを確認したり、情報モラルとも関連付けて考えたりすることで、児童が適切な方法を用いて課題解決型の学習に取り組むことができるようにする。
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいに応じた効果的な授業の組み立てと資料提示の仕方を工夫する。(一枚絵・紙芝居・実物や写真・映像・提示の工夫等) ・振り返りの時間を十分に設定し、道徳の時間だけでなく、日常生活にも生かそうとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が発問場面をイメージしたり、自分の考えを表現したりしやすくするために掲示物や学習道具の工夫をする。 ・資料の主人公の気持ちを考えやすいように、挿絵や吹き出しを入れたりしてワークシートの工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の心情の変化や児童が物語に入り込みやすくするための掲示や板書の工夫をする。 ・教科書にあるQRコードを読み取り、音声付きのスライドショーを提示する。 ・登場人物の葛藤や心情の変化だけでなく、自分ごととして価値項目を捉えることができるようにするための、ワークシートの振り返り記述欄の工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な価値項目を身近に感じることができるようにするための、映像、画像を活用した導入の工夫をする。 ・様々な意見に触れられるように交流の仕方を工夫する。 ・授業の中で学んだことを生かそうとする児童を育てるために、「考えた理由」を考える時間を確保する。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい集団活動を通して、活動の目標を全員で作成し、その目標について全員が共通理解をもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当がサポートしながら、自分たちの課題に向き合い解決することで、みんなで協力して良いクラスにすることを良さを味わえるようにする。 ・自分の活動だけでなく、友達の活動にも目を向け、助言したり、励まし合ったりする活動を入れることで、交流することの良さを実感できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・係や当番活動を通して、自分たちのクラスや学年のためにできることを意識し、自分たちで企画、準備に挑戦する機会をつくることと、振り返りの時間を丁寧に取ることで、次につながる活動になるようにする。 ・縦割り班活動の中で、自ら進んで活動に参加し、児童間で互いの活動を振り返り認め合うことができる場や時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校を支えるという役割を意識し、自分たちで目標を立てながら、企画、準備をすすめることができるよう、進行の手順を確立する。 ・主に縦割り班活動や委員会、クラブ活動の中で、個々の役割を見直し、児童間で互いの活動を振り返り認め合うことができる場や時間を確保する。
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションポイント(笑顔、はっきりした声、アイコンタクト、ジェスチャーなど)を意識させる。十分に練習したり、チャンツ等で慣れ親しんだりした後に発話させるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャンツやミニゲームを通して、外国語に慣れ親しんだり、発話してみたいという態度が育つようにする。 ・日常生活でよく使う言葉(曜日、数、気持ち)の表現を反復し、自分の気持ちを表現しようとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャンツやミニゲームを通して、語彙を増やしたり、発音の仕方を身に付けたりし、楽しみながら外国語に親しむことができるようにする。 ・学んだことを表現する場面を設定し、友達と交流し合う「スマールトーク」の中で、学んだことを伝えようとする態度を育てる。 	